

第47回

新千歳空港の24時間運用に関する 苫小牧市地域協議会会議録

平成30年8月22日開催

第47回 新千歳空港の24時間運用に関する苫小牧市地域協議会

・日 時 平成30年8月22日（水）18：30～20：00

・場 所 リサイクルプラザ苫小牧

・議 題

- (1) 住宅防音対策の進捗状況等について
 - (2) 地域振興対策の進捗状況等について
 - (3) 新千歳空港周辺地域振興基金について
 - (4) 平成29年度航空機騒音測定結果について
 - (5) (公財)新千歳空港周辺環境整備財団の新たな体制整備について
 - (6) 新千歳空港における最近の動向について
 - (7) その他
-

◎地域委員 出席者（19名）

◎北海道（9名）

◎公益財団法人新千歳空港周辺環境整備財団（4名）

◎苫小牧市（7名）

1. 開 会

● 苫小牧市（まちづくり推進室長） 皆さん、おぼんでございます。

定刻となりましたので、ただいまから、第47回新千歳空港の24時間運用に関する苫小牧市地域協議会を開催いたします。

よろしく願いいたします。

本日の協議会は、お手元に配付しております次第により進めさせていただきます。

2. あいさつ

● 苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、会議に先立ちまして、北海道の交通企画監からご挨拶を申し上げます。

● 北海道（交通企画監） 皆さん、こんばんは。

どうぞよろしくお願いをいたします。

苫小牧市の地域協議会の開始に当たりまして、一言、ご挨拶をさせていただきます。

委員の皆様方、きょうは、本当にお忙しい中、また、日中はお仕事ということで、大変お疲れのところ、遅い時間帯でございますが、協議会にご出席をいただきまして、心からお礼を申し上げたいと思います。

また、日頃から、新千歳空港の24時間運用をはじめ、道の航空行政の推進に当たりまして、多大なるご協力をいただいておりますことを、この場をお借りして改めてお礼を申し上げたいと思います。

3年が過ぎますが、平成27年に皆様のご尽力によりまして合意をいただきました深夜・早朝時間帯の発着枠でございます。今年の夏ダイヤで昨年を2枠上回る1日最大18枠という利用が、今、されているという状況でございます。

また、国際チャーター便につきましても、昨年度を上回る59便が運航される予定ということで、着実な利用がまさに進められているというところでございます。

新千歳空港は、ご承知のとおり、昨年度は2,200万人の多くの方々にご利用をいただきました。このうち、国際線の利用が初めて300万人を超えるなど、国内外からの北海道への旅客需要が着実に伸びている状況でございます。このため、国内線ターミナルビルの拡張工事が先月完了するなど、受入体制の充実に向けた取組が、今、まさに進められているところでございます。

また、来年度は、国際線ターミナルも拡張が完成をする見込みというような状況でございます。着実に進めていただいているというところでございます。

また、新千歳空港を含む道内7空港の一括民間委託は、新聞等でも、今、少しずつ報道が進められているところでございますけれども、現在、運営権者の選定に向けて、先週の8月16日に第一次審査に係る審査書類の提出期限を迎えたところでございます。後ほど、担当参事から事業の実施方針について説明させていただく予定でございます。

また、何よりも大事な地域の皆様方の安全、安心な生活環境の確保や、地域の振興発展

のための取組でございますが、皆様とお約束をさせていただきました住宅防音対策、地域振興対策については、北海道、苫小牧市さん、財団が連携をしながら、着実に取組を進めさせていただいているというところでございます。

本日は、住宅防音対策でございますとか、あるいは、地域振興対策につきまして、現在までの進捗状況や今後の事業の進め方、さらに、財団の体制強化に係る道派遣職員の増員などの課題について説明させていただく予定でございます。皆様方から忌憚のないご意見を賜ればと考えているところでございます。

本日は、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

ありがとうございます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 続きまして、苫小牧市の副市長からご挨拶を申し上げます。

●苫小牧市（副市長） どうも、皆さん、こんばんは。

皆様方には、大変お疲れのところ、このようにお集まりをいただきまして、まずもってお礼を申し上げますところでございます。

ただいま、北海道の交通企画監からもお話がございましたように、皆様のご協力のもとに、この新千歳空港は、順調な発展をしているというふうに我々も認識をしているところでございますけれども、市としては、とにかく、今まで皆様方とお約束をさせていただいている地域振興策、それから、防音対策について、しっかりと進めていきたいというふうに思っておりますので、今後ともよろしくお願いをいたします。

今日は、またいろいろご報告等もございますけれども、皆様方のご忌憚のないご意見、それから、ご質問もそうですけれども、活発な議論ができるよう、お願いを申し上げます、簡単ではございますけれども、ご挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしくお願いいたします。

3. 議 事

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、3の議題に入らせていただきます。

議題の（1）住宅防音対策の進捗状況等についてを議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、私の方から資料の説明をさせていただきたいと思います。

まず、住宅防音対策の進捗状況等ということで、資料の方は、次第をめくりまして、1ページ目の資料1をご覧ください。

最初に、1の平成29年度の実績等についてでございますが、助成申込・内定件数につきましては、一般住宅が19件、集合住宅が1件、合計20件、工事实績件数についても

同じく一般住宅が19件、集合住宅が1件、合計20件というふうになっております。

次に、2の平成30年度の実施計画についてでございますが、苫小牧市分の今年度の予定件数につきましては、一般住宅が13件、集合住宅が1件、合計14件というふうになっております。

次に、3の平成30年度の現地調査についてでございますが、昨年度から、住民の皆様の希望する時期に的確に工事ができるよう、工事の前年度に現地調査と設計を行いまして、次の年の希望する時期に工事に着手できるよう、取り組んでいるところでございます。

こちらの今年度の現地調査につきましては、来年、平成31年度に工事を予定している住宅に対して実施するものでございまして、今年度の予定件数は一般住宅のみで20件を予定しております。

なお、3ページ目の参考1ということで、千歳市の住宅防音対策の進捗状況について、資料を添付させていただいております。後ほどご確認いただければと思います。

それでは、資料の2ページに戻っていただきまして、4の冬期施工の促進についてでございます。

(1)の実施の理由でございますが、これまでの住宅防音対策の工事实績を踏まえますと、現地調査等で工事時期について確認する際、冬場の工事はやりたくないといった意見をかなり多くいただいているところでございます。

また、そういったところでは冬場の工事が避けられる傾向にございまして、今年度も、苫小牧ではございませんが、千歳の方で、既に何件か来年度に工事を回したいという申し入れをいただいている状況でございます。

一方で、工事の優先順位が低い方々からは、一日でも早く工事をしてほしいといった切実な声をいただいております。冬期でもできる工事を少しでも実施することで、工事の進捗を一步でも進めたいと。そういった観点から、今年度より、予算の範囲内ではございますが、冬期間でも工事を希望される方がいらっしゃれば、受付順で工事を実施する制度を設け、事業の一層の円滑な進捗を図ることにしたところでございます。

(2)の施工の条件といたしまして、設計・施工会社、両者の了解をいただいたもので、来年の2月までに完了する工事とさせていただきます。

(3)の対象工事ですが、今年の10月から来年2月までに施工が完了する工事であれば、基本的には、特に制限を設けず、全ての防音工事を対象とさせていただきます。

ただ、冬期間という条件を考慮いたしますと、例に書いてありますように、内窓やエアコンの設置、あるいは、塗装を要しない工事、屋内での工事、こういったものが想定されるところでございます。

(4)の募集方法ですが、ホームページ、回覧板、チラシ等で周知をさせていただき、10月から1か月間、募集をかけることとしまして、希望者は、その間に冬期施工申込書というものを財団に提出していただくと。基本的には、受付・提出していただいた順番から工事をさせていただくというふうに考えております。

あと、その他でございますが、まず、当初予算の範囲内で実施ということで、先ほど言いましたように、今年度に工事を予定していましたが、都合により来年に繰り越した際の予算の残り、この範囲内で実施をしたいというふうに考えております。そのため、希望者が多数いる場合には、予算の残額によっては工事ができない場合があるということになります。

また、工事の着工につきましては、先ほども言いましたように、基本的に受付順といたしまして、これまでのように、家族数、あるいは、高齢者等での優先順位、そういったものは付けないで行いたいというふうに考えております。

それと、工事の希望は、単年度限りの取扱いにするということで、通常の工事ですと、工事を申し込みますと、その優先順位に従って順番に工事をしていくという形をとっておりますが、冬期施工につきましては、今年度に完了する工事を冬に行うという観点から、予算の都合等で工事ができなかったという場合につきましては、来年度に改めて申し込んでもらうという形をとらせていただこうと思っております。

最後に、工事内容によっては、冬期間ということもあり、寒さ等により日常の生活に支障が出るかもしれない、こういった部分もご理解の上、冬期施工にお申し込みをいただければというふうに考えております。

資料1の住宅防音対策に関する進捗状況についての説明は、以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） では、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問をお受けしたいと思います。

ご意見、ご質問はございますでしょうか。もしありましたら、挙手をお願いいたします。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 特にないようですので、次に、議題の（2）地域振興対策の進捗状況等についてを議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、地域振興対策の進捗状況等についてご説明いたします。

4ページの資料2をご覧ください。

まず、植苗地区の道営住宅の整備についてでございますが、植苗地区の星ヶ丘団地内に道営住宅を整備するものでございます。

進捗状況でございますが、平成30年度中の入居に向け、取組を進めているところでございまして、平成28年度から29年度におきましては、地権者との交渉と並行し、支障物件調査、地盤調査、基本・実施設計等を実施したところでございます。

今年度につきましては、7月に用地を取得したほか、1期目につきまして、年度内の完成を目指して、造成工事、本体工事を進めているところであり、また、並行しまして、今月から2期目の実施設計について着手をしております。

5ページ目の参考1、公営（道営）住宅の整備概要、こちらのA3判の資料をご覧いた

だきたいと思います。

こちらの図面にありますように、植苗地区の道営住宅につきましては、合計30戸の整備を予定しており、4期に分けて段階的に整備を進めていく予定でございます。

図の一番上にあります2棟8戸、こちらを第1期目とし、その後、下に向かって8戸ずつ、最後の4期目については、6戸を整備させていただく予定でございます。

次に、資料の上段の方にあります最短での整備スケジュールでございますが、表のとおり、今年度に、まず1期目を完成させていただく。その後、毎年度1期ずつの着工、竣工、整備を進めていくということで、最短で平成33年度までに全ての整備を終えたいということで、道としては、このスケジュールどおりに進められるよう、努めてまいる考えでございます。

それでは、4ページに戻っていただきまして、2つ目の道の駅関連施設の整備についてでございますが、道の駅関連施設につきましては、道の駅「ウトナイ湖」の施設周辺に、ウトナイ湖を望む展望台を整備するものでございます。

平成29年度は、市と住民の皆様との協議した内容をもとに設計業務を行い、今年度は、年度内の完成を目指して、今月より本体工事に着手しているところでございます。

概要といたしまして、6ページ及び7ページに、参考2ということで、図面と、それから、パース図を添付させていただいておりますので、後ほど、ご覧いただければと思います。

それでは、また4ページに戻っていただきまして、3つ目の冷暖房機器等の設置でございますが、冷暖房機器等設置につきましては、先ほどご説明した住宅防音工事とセットで実施することを基本としておりまして、平成29年度までに18件実施し、今年度については7件の実施を予定しているところでございます。

次に、4点目の住宅建設が可能となる区域拡大の検討でございますが、星ヶ丘地区につきまして、平成28年11月に地区計画の告示を行いまして、住宅の建築が可能な区域となったところでございます。

続きまして、沼ノ端地区の複合施設の整備でございますが、地域の拠点施設として、大型児童センター、市役所、出張所及び集会室の機能を兼ね備えた複合施設を、沼ノ端スクエアセンター西隣の市有地に整備するものでございます。

進捗といたしましては、平成29年6月に調査・設計業務を終え、来月の完成を目指して、現在、本体工事を実施してございます。

概要といたしまして、8ページに参考3として完成予定図を添付しておりますので、こちらも後ほどご覧いただければと思います。

申しわけありません。再度、また4ページに戻っていただきまして、次に、文化交流施設の整備でございます。

沼ノ端地区鉄南地域に新たな文化情報を発信する拠点施設として、仮称ではございますが、文化交流サロンを整備するものでございます。

現在、施設のあり方につきまして、市と地域の皆様との協議を進めている段階でございます。協議が整い次第、基本・実施設計等に着手する予定でございます。

最後に、勇払地区の総合福祉会館の整備でございますが、こちらにつきましては、平成29年12月に供用開始をしております。

地域振興対策に関する進捗状況については、以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問をお受けしたいと思っております。

ご意見、ご質問のある方は、挙手を願います。

●F委員 植苗地区の住宅の完成は、3月の末日になってはいますが、その後をお願いをして、知事さんのご就任中にテープカットをしていただくことで、2月27日の大安の日に直してもらっているはずですが、これはそういう形になっていません。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 工事の契約上といたしましては、3月末日、3月20日だったと思っておりますけれども、契約日という形で期限を設定させていただいているところでございます。

ただ、F委員から前々からお話しいただいております、2月末までに完成して、セレモニーをとということについては重々承知をしておりますので、その期日に間に合うような形で工事が完成できるよう、事業者の方と、今、調整を進めさせていただいているところでございます。

その形で、今、努力しているということで、ご理解いただければと思っております。

●F委員 その辺、うまくいくのでしょうか。

というのは、発注する前に私は言っています。だから、発注する前に言っているのだから、この期日だけは2月27日までに完成するよということ渡さないと、業者に対する逃げ道があります。その辺をきちんとしてもらわないと。30枠を通すときは、がんがんが、本当に我々が生活できないぐらいさく来ていて、大事なときにこんなざまでは、道庁さん、だめだな。ここは徹底してください。今、きちんと返事をして下さい。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 3月20日の期限に設定していた理由としましては、工事が完成した後に完了検査等を行った後に、やはり、どうしても手直し等が生じるという事態もございまして、やはり、工期にある程度余裕を持たせたほうがいいだろうということで、3月20日と設定させていただいておりますが、いただいておりますご希望については十分承知しておりますので、その段階にきちんと完成、引き渡しいただけるような形で何とか調整していきたいというふうに思っております。

●G委員 もう一つ、これは、道庁さんというか、苦小牧市さんに質問したらいいのか。道の駅の展望デッキ、植苗地区に説明した当初は、今年の11月か12月に完成するということだったのですが、これだと年度内ということは、どういうことかというふうになったのか、詳しく説明をいただきたいと思っております。こんなにズレるといことは、

そちらの何かがあったのだと思っはいますが、我々のところに詳しい説明は全くありません。

●苦小牧市（空港政策課長） 道の駅の展望デッキにつきましては、今年の2月に植苗の役員会の方へ説明させていただいて、目標として年内の完成を目指したいということで説明させていただきました。

ただ、それに向けて入札を実施したのですが、なかなか工事事業者の都合等もございまして、不落札ということで、一度、入札が流れました。その後、再入札ということで、8月に入ってから事業者の方が決定したということで、工期的には3月末という形になっておりますが、できるだけ早期の完成を目指すということで、今、話を聞いているところでございますので、ご理解いただければと思います。

●G委員 それであれば、苦小牧市さんですから、地域に来るチャンスは何回もあったわけですから、そういう経過報告がないというのは、こちらから質問してから説明されるというのはいかがなものかなと思います。今後もそういうことで何か月も違うのであれば、ぜひ地域に、やらせてくれという時は説明に来まして、こういうふうに言って、変更になったという説明は、質問がなければしないというのはいかがなものかなと思っております。今後もそういうふうに変更があるのであれば、ぜひ説明をいただきたいなと思っております。

●苦小牧市（空港政策課長） G委員のおっしゃることはもっともだと思っております。私どもの方で報告が足りなかったということで、この場をもってお詫びにかえさせていただきます。今後、このような件がある場合には、地域の方にしっかり報告させていただきたいと思っております。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ほかにご意見、ご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

●H委員 展望台の高さの図面が入っていないような気がするのですが、高さ的な説明をちょっとお願いしたいと思います。

●苦小牧市（空港政策課長） こちらにつきましては、地域等とも話させていただいて、それから、道の駅の会社の方とも相談させていただきまして、17メートル程度の高さで整備するという形になっております。

●H委員 これは、屋上にも人が上がれるのでしょうか。この高さが17メートルですか。

●苦小牧市（空港政策課長） そうです。6ページのR階平面図、右上の表になりますけれども、ここが外に出て展望できる階になります。このラインが17メートルか17メートル50センチか、すみません、そこははっきりしていないのですが、17メートル程度まで上げるということは、伺っております。

●H委員 目線で言うと、5階ぐらいの高さになるの。一つの階を3メートルにして。

沼ノ端の複合施設の質問をさせて。

完成は、平成30年9月完成ということで表示していますが、オープンセレモニーなり、何かそれに類似したものをするのかどうかということと、複合型なので、1回するのか、

数回に分けてするのか、市の出張所なり児童館も含めて、その辺、よろしく願います。

●苦小牧市（空港政策課長） 沼ノ端のオープンセレモニーについては、一応、2回を予定しております。今の予定ですけれども、10月29日、こちらが月曜日の平日になりますけれども、ここで、まず、平日にオープンしてしまうということで、簡単なテープカット程度のセレモニーをまず行います。その後、11月3日土曜日に、こちらの地域協議会で要望してでき上がる施設ということで、地域協議会の委員の方にも集まっていたいて、オープンセレモニーを実施したいということで予定はしておりますけれども、詳細がまだ詰まっていないものですから、詰まり次第、ご案内を差し上げたいというふうに考えております。

●H委員 テープカットというのは、どの部分のテープカットですか。

●苦小牧市（空港政策課長） まだ詳細が決まっていないのですけれども、基本的には全て月曜日から開始します。沼ノ端、新しい出張所、それから、児童センター、こちらについては、10月29日の月曜日から基本的には開始いたします。ただ、平日ということもあるので、本来の大きなセレモニーというのは土曜日にやるという形をとらせていただきます。

●H委員 わかり次第、教えてください。以上です。

●苦小牧市（空港政策課長） わかりました。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ほかにご質問、ご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、次の議題に移ります。

（3）新千歳空港周辺地域振興基金について、北海道から説明をいたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 新千歳空港周辺地域振興基金についてご説明をさせていただきます。

9ページ目の資料3をご覧ください。

最初に、基金の概要についてでございますが、造成目標額30億円に対しまして、平成29年度末現在の造成済み額は19億1,110万円となっております。

昨年の協議会でもご説明させていただきましたが、今回の30枠合意を契機といたしまして、これまで道内で事業活動をされている企業を中心に、約60社に対しまして、延べ120回の訪問を行い、新千歳空港の24時間運用に関する意義等を説明するなどして、基金造成への協力依頼を行ってきた結果、15社から総額7,240万円のご寄附の表明をいただきまして、そのうち、平成29年度に寄附金を納入いただいた企業様は8社、845万円というふうになっております。

ご寄附をいただきました主な企業については、表のとおりでございます。

次に、基金造成に向けた取組でございますが、道といたしましては、昨年に引き続き、道内で事業を展開する企業に協力をお願いしておりまして、中でも直接的なメリットを受

けている深夜便を運航しているエアラインに対しまして、改めて協力要請を行っております。

そういった中、AIRDO様におかれましては、昨年度にご寄附をいただいたところまでございまして、また、ANA・全日空様におかれましては、現在、前向きにご検討をいただいている、そういった状況でございます。

そのほか、基金の確保に向け、経済界との協議を引き続き進めていく所存でございます。

新千歳空港周辺地域振興基金に係る説明については、以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問をお受けしたいと思っております。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ないようですので、次に、（４）平成２９年度航空機騒音測定結果についてを議題といたします。

この件については、北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、平成２９年度の民航機の騒音測定結果について、説明をさせていただきます。

１０ページの資料４をご覧ください。

航空機騒音の測定局でございますが、苦小牧市内におきましては、北海道が設置した植苗局等９局、それと、苦小牧市さんで設置しました琥珀荘局等５局、計１４局がございます。

なお、表の右側には、年間L d e n値と民航L d e n値を記載しておりますが、年間L d e n値といいますのは、千歳飛行場を離着陸する自衛隊機を含みます全ての航空機騒音を集計した結果となっております。

また、民航L d e n値とは、民航機の騒音だけを識別、分離して測定することができないため、自衛隊機の離着陸のなかった日を民航機のみ航空機騒音を測定した日とみなして集計した結果でございます。

平成２９年度の測定結果につきましては、平成２９年度の欄の太枠で囲った部分となっております。

民航L d e n値につきまして、平成２８年度と比較しますと、自衛隊機の飛行日を除いた後の集計対象日数が異なること、あるいは、気象条件等によって算出値が変化する場合がありますことから、単純な比較はできませんが、植苗局をはじめとする９局におきまして、前年度の値を上回る結果というふうになっておりますが、数値としては１から２程度の微増でございまして、いずれにしましても、全ての測定局で対策の目安となります環境基準を下回っているところでございます。

平成２９年度の民航機の騒音測定結果に係る説明については、以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたら挙手をお願いいたします。

(「なし」と発言する者あり)

●苦小牧市(まちづくり推進室長) それでは、ないようですので、次に、議題の(5)
(公財)新千歳空港周辺環境整備財団の新たな体制整備についてを議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道(新千歳空港周辺対策担当課長) 新千歳空港周辺環境整備財団の新たな体制整備についてご説明いたします。

11ページの資料5-1をご覧ください。

道職員1名の財団への増員につきましては、昨年度、私どもから皆様にお願いをし、内諾をいただいたものでございますが、今年度より、新たに財団に派遣することが決定いたしましたので、改めてご説明をさせていただきます。

このたびの枠拡大の合意に伴いまして、住宅防音工事につきましては、新規・経年住宅への防衛省に準拠する防音工事のほか、防音機能向上等を図る補完工事、苦小牧市冷暖房機器設置工事など、6枠時と比較しまして工事内容が複雑になっており、防音工事1件当たりの審査業務等が6枠時と比較して格段に増えましたことから、財団職員の業務負担が大きくなっているところでございます。

このことから、平成30年度より、2年間の暫定措置ということで、道職員1名を新たに財団に派遣することとしたところでございます。

なお、今回、2年間の暫定措置ということにさせていただいておりますが、仮に継続が必要というふうになった場合につきましては、その時点で改めて皆様と協議をさせていただきたいと考えております。

道から派遣いたします職員の増加に伴います人件費見合い分、こちらにつきましては、昨年度にご説明をさせていただきましたとおり、皆様に配分しております新千歳空港周辺地域振興基金の運用益から支出をさせていただきたいと考えております。

なお、皆様方の町内会への配分額に影響が出てくるのは、平成31年度、来年度からの配分からという予定でございます。

12ページをご覧ください。

資料5-2でございますが、こちらは、道派遣職員の人件費を基金運用益から支出するために、皆様と平成23年に締結いたしました確認事項につきまして、今回の措置を導入することで変更する必要がありますことから、変更の案をお示したものでございます。

13ページの参考資料をご覧いただきたいと思っております。

こちらが平成23年に皆様と締結させていただいた確認事項本文でございますが、さきの確認事項では、2番目にありますように、派遣する道職員が3名以内という形で記載があることから、今般、この項目を4名以内ということで修正させていただこうということでのご提案でございます。

このたびの派遣職員の増に伴いまして、財団の体制を強化し、地域の皆様からの問い合わせや相談により一層丁寧に対応するとともに、工事が円滑に着工できる流れを確立させ、

住宅防音対策の一層の進捗を図ってまいりたいと考えております。

新千歳空港周辺環境整備財団の新たな体制整備に係る説明については、以上でございます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問ございましたら挙手をお願いいたします。

●G委員 先ほど説明が終わったものへの質問ですが、平成31年度から地域に入る基金運用に影響がありますということで、30億円の基金のうち1億何ぼを、北海道庁さんに負担をさせていただいているのは重々承知していますが、平成6年から、もう二十何年間も30億円に達していないわけです。ですから、今の観光客、エアラインの景気のいいときに、もっと努力して、AIRDOさんは、去年ですけれども、ほかのエアラインは、日本航空等々がありますけれども、国内のLCCをはじめ、まだたくさんあるわけですから、早く道庁さんの方で30億円基金を少しでも縮めていただかなければ、2年の暫定措置とはいえども、この基金運用から地域の基金に影響するということであれば、何とも道庁さんに積んでもらっているのが心苦しいという感じがしております。運用益は、今、非常にいい利回りとは聞いていますが、ぜひ早くこの30億円基金を積んでいただければというお願いでございます。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） G委員より、ご指摘を前々からいただいております。なかなか満度に造成することがかなわず、皆様にご迷惑をおかけしていることに関しましては、改めてお詫びを申し上げたいと思っております。

先ほど言いました道内企業を中心に60社を回って、延べ120回の訪問等をさせていただいて、協議をさせていただいておりますが、今後につきましては、委員からご指摘があったように、ほかのLCCを含めた国内エアラインであったり、あるいは、道外の事業社であっても道内に活動を置いている、そういった企業、そういったところにもお声かけをさせていただいて、少しでも早くに造成していくような形で取り組んでまいりたいというふうに考えております。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ほかにご意見、ご質問はございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） では、ないようですので、次の議題に移らせていただきます。

議題の（6）新千歳空港における最近の動向についてを北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、新千歳空港におけます最近の動向について説明をいたします。

14ページの資料6-1をご覧ください。

最初に、1の深夜・早朝時間帯における国内定期便についてでございますが、先ほど監からの挨拶でも説明させていただきましたが、表に記載のとおり、今年の夏ダイヤにおきましては、昨年と比較しまして、2便増の1日最大18便の定期便が運航されているとこ

ろでございます。この18便のうち、表の網かけの部分でございますSKYMARKにおける新千歳に22時35分に到着するもの、それと、新千歳を1時10分に出発する、この羽田便が新たに運航されている便というふうになっております。

航空会社からは、深夜・早朝便における利用状況は順調というふう聞いておりまして、今後もさらなる枠の活用が見込まれるものというふうと考えてございます。

次に、2の深夜・早朝時間帯における国際臨時・チャーター便についてでございますが、30枠の合意以降、これまでに、韓国やインドネシアなどのアジア諸国及びグアムへの臨時・チャーター便が運航されてございます。

今年度の国際チャーター便につきましても、昨年度を上回ります59便が運航されることが決定しておりまして、韓国の新千歳＝務安線の便数が倍増したほか、新たにフィリピンのマニラからのチャーター便なども運航されるなど、利用状況も好調というふう伺っております。

このように、国内、国際各エアラインにおきまして、徐々に深夜・早朝時間帯のメリットが浸透してきているものと受けとめておりまして、国際定期便の就航に向けまして、環境が整いつつあるものと認識しているところでございます。

資料6-1の説明は、以上でございます。

●北海道（空港運営戦略推進室参事） 私の方から、15ページの資料6-2で、道内空港の民間委託についてということで、北海道内7空港特定運営事業等実施方針について、内容を説明させていただきます。

15ページに、実施方針のポイントということを示してございますので、ご覧ください。

まず、左の囲みの部分でございます。本事業の概要でございますけれども、事業期間、委託の期間につきましては、30年間としておりまして、不可抗力等がございました場合は、延長を含めて、最長35年間となっております。

次に、事業方式についてでございます。

国管理4空港、国の管理する4空港につきましては、着陸料収入などにより、原則、全ての費用を運営権者が負担する独立採算型となっておりますけれども、地方管理3空港、女満別、帯広、旭川でございますけれども、公費負担を伴う混合型という制度設計としてございます。

運営権者から提案を求める事業につきましては、本道の航空ネットワークの充実強化に関する事業、北海道の広域観光の振興に関する事業、地域との共生に関する事業の3点について、特段の提案を求めることとしてございます。

次に、運営権者の責任の履行確保に関する事項といたしましては、4管理者、今回、7空港を管理する者が4つございまして、国と北海道と帯広市、旭川市でございますけれども、4管理者共通化の枠組みをつくって、それによりモニタリングというものを実施すること、また、提案事項や要求水準を遵守しない、それを守らないような事態が続いた場合には、4管理者全ての契約解除ということを念頭に対処できる包括的な仕組みであったり、

あと、管理者間における協議の場を構築することを定めたところでございます。

続きまして、運営権対価等でございますけれども、国管理4空港の場合は、運営権者は、運営権対価一時金というものを払うことになってございまして、これはもう既に決まっております。毎年度24億円を30年間にわたり運営権対価分割金として国に支払うこととなるということになってございます。これに一時金の金額ということも、またさらに提案により競うこととなります。

ということで、最終的な運営権対価につきましては、24億円掛ける30年の720億円、それプラス一時金ということで、720億円以上となるということになってございます。

次に、運営権者の募集、選定でございます。右側の囲みを見ていただければと思います。

有識者等で構成される審査委員会を国の方で代表して設置してございまして、この委員会の中で7空港の提案内容を一体的に審査することとしてございます。

提案内容の審査につきましては、第1次、第2次ということで2段階で行うこととなりますけれども、道内7空港の航空ネットワークの充実を図って、地域と連携した広域観光の振興を含めた地域経済の活性化に資する者ということで総合的に判断いたしまして、優先交渉権者を選定することとなります。

続いて、16ページをご覧ください。

北海道内7空港運営委託に向けました現時点での想定スケジュールについて記載してございます。

既に今年の4月25日に募集要項が公表されまして、公募の手続が開始されております。それで、本年9月頃に1次審査の結果が出るような形になってございます。その後、2次審査というものを経て、平成31年、来年の7月ごろに優先交渉権者を選定いたしまして、平成32年1月15日に7空港のビル施設等事業を開始。ビルの運営を一括して、7空港全て、まず開始します。その後、滑走路等の運営につきましては、新千歳空港については6月1日、そのほかの空港については、順次、その後、行われるということになってございます。

今後の対応といたしましては、道としては、平成32年からの道内7空港一体での運営開始に向けて、着実な推進に取り組んでまいるところでございます。

道内空港の民間委託に係る説明は、以上でございます。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 民間委託に関しまして、24時間運用との関連につきまして、補足で説明させていただきたいと思っております。

昨年度の地域協議会でもご報告させていただきましたが、民間委託後につきましては、今、運航しています深夜・早朝便に係る着陸料、これが運営権者の収入となりますことから、運営権者には、24時間運用に伴います環境対策につきましてご協力をいただきたいということで、昨年7月に策定されました基本スキーム案、こちらにおきまして、運営権者に応分の負担をしていただくことを要望させていただいていたところでございます。

その後、企業へのマーケットサウンディングの結果などを踏まえまして、国と協議をした結果、先ほどご説明いたしました実施方針、3月末に取りまとまりましたが、そこにおきまして、住宅防音対策費用の総額の一定額につきまして、運営権者に負担を予定している旨を明記させていただいたところでございます

どの程度を運営権者に負担いただくか、そういった詳細につきましては、今後、協議していく予定でございます。

なお、これまでもご説明しておりますが、30枠への拡大に伴いまして、現在進めております住宅防音対策、地域振興対策、これらにつきましては、民間委託後においても、道及び苫小牧市さん、財団が連携して責任を持って実施するということとしておりますので、この内容について変更というものはございません。

協議の結果につきましては、また別途、改めて皆様にご報告させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

補足説明については、以上でございます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたら、挙手をお願いいたします。

●I委員 これは前にも聞いておるわけですが、この場でもう一度答えていただきたいということで申し上げます。

この空港の関連で、駐車場を運営している空港環境整備協会というのがありまして、地域の振興に今まで貢献していただいているわけですが、このことにつきまして、駐車場も含めて民間委託になるわけです。そういうことであるならば、これも含めて、今までの地域振興を今後とも続けていただきたいということを要望されているとは思いますが、いかがでしょうか。

●苫小牧市（空港政策課長） 今、I委員からお話があった件に関しましては、苫小牧市としても、しっかりここを重点的に今回の民間委託を進める上では要望してまいりました。

今回のスキームでいけば、15ページの左側の上から三つ目、運営権者から提案を求め事業ということで、地域との共生に関する事業というのがあります。これの中身、今回は示されておりませんが、何百ページもある募集要項の中には、ここの空港環境整備協会の駐車場で行っていた地域振興策を、今後は今以上に充実した地域振興をやるということが明記されましたので、その辺については、私どもの要望がしっかり踏まえられて、募集要項に載ったという形になってきます。

ただ、今後どういう形で地域振興策をやるかといいますと、そこは、新しいSPC、民間の事業者と私ども苫小牧市と話し合っ内容が決まっていくという形になりますので、今以上ということは、一応、今のスキームの中では決まったという形になっています。

●I委員 今後とも、このことをよろしくお願いたします。

あわせて、今の空港環境整備協会が地域振興を出しているのは、A、B、それから、も

と迎賓館に使っていた駐車場、これらは千歳でしょうか。AとBのどちらかが千歳の観光協会かどこかだと思いますが、空港環境整備協会で扱ったのは、一つだけ。この三つが、全部民間に行くわけですが、確認ですが。うなずいていらっしゃるのでもう分かりますけれども、そうすると、今まで以上に果実はあるということです。ですから、苫小牧市も、今までの内容を精査しながらしっかりと対応していただきたい、こういうことを申し上げておきます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ほかにご意見、ご質問はございますでしょうか。

●H委員 副市長さんに質問したいと思います。

お盆のときにお客さんが来て、飛行場に行くたびに工事がいろいろなところで行われていて、新聞の記事ではそれなりにわかっているつもりもあるのですが、苫小牧市といますか、この協議会にそういう報告がない中で工事が非常に進んでいたり、新聞に出て初めて今の工事が始まっているのがあったりします。その辺の報告というのは、苫小牧市が事前に受けているのでしょうか。駐車場、道路の工事も、今、いろいろなところで行われています、滑走路の補助道路も含めて。現状では新聞でしか知らないような状態なのですが、苫小牧市としては報告をちゃんと受けているのでしょうか。

●苫小牧市（副市長） ご存じのとおり、ずっと国際線を中心に、今、工事をやっています。道路もやっています。それから、新しいビルの工事もやっています。我々としては注意しているのですが、内容については報告がございまして、中身について担当の方から話をさせます。

●苫小牧市（空港政策課長） 空港整備に関しましては、国の方から私ども苫小牧市にも説明をいただいております、この地域協議会の場ではございませぬけれども、昨年の騒音対策協議会の場では、誘導路ですとか国際線のエプロンの拡張について、国の新千歳空港建設事務所の方をお呼びして説明をしたところでございます。

ただ、今、国際線ターミナルビルの増築に関しては、まだ騒音対策協議会の方には、今年の4月に行いましたけれども、その時点はまだ詳しくわかっていなかったものですから、次回の騒音対策協議会の際に、その辺の説明をさせていただきたいというふうに考えております。

●H委員 まだ形としては生きている苫小牧側につくる第2ターミナルですが、今の工事を見ていると、そういうことを全然無視したように進んでいるように見えます。質問をすると、その計画は生きているということですが、道路なり誘導路のつけ方によっては2ビルを無視してやっているような部分もあるようです。その辺は、2ビルは苫小牧が諦めたのか、それともまだ生きているのか、お願いします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） まず、確認させていただきます。新千歳空港の基本計画、国の方で策定しました計画におきましては、第2ターミナル、馬蹄形のターミナルビルをつくるということで、これは生きているといえますか、これを廃止したというお言葉は国からいただいておりますので、この計画自体は今も存続しているものと考え

ております。

ただ、委員がおっしゃられた苫小牧側にそれができるかどうかというのは、当時の滑走路延長での苫小牧側に2ビルを建設してほしいという要望の中でのお話ですので、マスタープランの方にそういう形で載っているということではないかと思っておりますので、まず、その部分についてはご認識をいただければというふうに思っております。

●H委員 今の新しい車の道路なりを含めて、完全にまたいではないけれども、ビルを仮に建てるとしたときに、非常に弊害が出るようなところに道路が、今、工事をしているわけです。ですから、そういう意味では、今の説明も非常に曖昧なのですけれども、苫小牧側の2ビル計画というのは、逆に言うと、なくして新たにこういう新しい飛行場をつくるという絵をつくったほうが説明もしやすいと思うのですけれども、その辺の見直しというのはいつ頃とか、そういうのはまだ一切ないということなのですか。

●苫小牧市（空港政策課長） 空港の整備の関係でございますけれども、今の半円形のビルが2つある形で、空港の整備計画が決まったのが平成1桁の代に、これは閣議決定ということで、こういう形でビルを整備しましょうという形は、その時点で決まりました。ただ、その後、新しい整備計画を更新する際には、それぞれの空港ごとの整備計画というのを定めずに、今後は、国内にたくさんの空港がございますので、それらの整備をどのような基準でやっていくかという整備方針が決まっただけでございます。ですから、新千歳の空港がどうなるのかという話に関しては、その当時の半円が二つある形の絵が残っているだけで、方向性は何も決まっていないという形で、今後に関しましては、国の方は、整備はこの基準でやりますよという基準しか示してきません。今後、ビルがどうなっていくかといいますと、今回、空港の民間委託の、今、公募をかけておりますけれども、この事業者がどういう新千歳の絵を描いていくかという形が今後の絵姿という形になっていきますので、その際に、2ビルがどうなったという話が議論されてくるとは思いますけれども、現時点では、国の方は方向性は示さずに、民間委託の事業者が決まってから、その辺の検討が進んでいくという形になっております。

●H委員 その辺は、これ以上話しても、らちが明かないのではないかと思います。

それと同時に、同じような状態にあるのが、植苗のトキサタマップ運動公園、それも手つかずで残っておりますし、そこには、野球場であったり、陸上のトラックであったり、いろいろな絵としては残っているのですけれども、その辺の計画の進捗状況はどう考えたらいいのでしょうか。

●苫小牧市（空港政策課長） トキサタマップ公園につきましては、議会でも、昨年か、最近、一度議論されておまして、こちらについては、地盤が悪いということで、土をどんどん、今、工事で余った土を入れているということで、まだ数年、これを埋めるのにかかるという形になっております。決してトキサタマップ公園の計画がなくなったわけではないという現状になっております。

●H委員 新しい市立病院の敷地に野球場があって、その野球場は、苫小牧市の予算でト

キサタマップに野球場をつくるという発表があったのですけれども、その予定はどうなっているのでしょうか。

●苦小牧市（空港政策課長） トキサタマップ公園の計画がなくなっていないということ、今、説明しましたとおり、一応、計画上は残っております。

●H委員 残っているではなく、市立病院を野球場を壊して建てるという前提で、野球場はトキサタマップ公園につくるという条件で市立病院が建っているわけです。ですから、それはいつの予定なのですかということです。

●苦小牧市（空港政策課長） その辺の予定については、まだ未定という形になっていません。

それから、先ほど、騒音対策協議会で、空港の関係、整備の関係を報告すると言いましたが、今後、地域協議会の中でもその辺を説明できるように北海道と調整させていただきたいと思います。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ほかに質問、ご意見はございますでしょうか。

●G委員 私ばかりで大変恐縮ですけれども、この6番の関連と、この30億円に関連するかもしれませんが質問をしたいと思います。

数か月前に千歳空港の南伸問題が大々的に新聞に出ました。具体的に図面も出ていましたので、皆さんも見ていると思うのですが、それと、この民間委託になったときの2次交通、バスを含めて、具体的にどういうふうになっているのか。深夜・早朝枠の夜中に来る時の交通の手段もいろいろあるようですけれども、このJRの南伸問題は、道庁さんにも聞きますが、苦小牧にも、どういう対応を今後するのか、あれだけ出るということは、架空の問題ではないのかなと思って質問をいたします。よろしくお願いします。

●北海道（交通企画監） 今のJRの南伸の件であります。

新聞報道が、今、されている状況でございます。私どもの方としても、国交省の鉄道局の方に状況を確認いたしております。鉄道局としては、今後の課題ということでは受けとめております。当然、これは非常に利便性が高くなっていきますので、事業の課題としては認められると。ただ、一方で、莫大な工事費もやはりかかるわけでございます。今、JR北海道の方で、今後の経営問題とも絡めて、どういう計画になるか、まさにJR北海道内部で、検討している状況だそうです。その状況を踏まえて、鉄道局としても、それが投資ベースに合うのかどうかを含めて、さらに検討をするということでございますので、現状としては、今、まさにJR北海道内部で検討課題として、実際にいろいろな検討が進められているという状況でございます。

●苦小牧市（空港政策課長） 苦小牧市の状況でございますけれども、まず、新聞報道が出ていますJR南伸に関しましては、私どもとして、JR等に確認をさせていただいておりますけれども、まだ具体的なお話は聞いていないという状況ですので、まずは情報収集に努めているという状況でございます。

それから、2次交通に関しましては、JR南伸も含めて、民間委託をする際には、こちらへの2次交通というのは大変大きな課題だと思っておりますので、民間委託を実施する際には、2次交通を何とか、苫小牧側の充実を図っていただきたいということは、一つの課題として提案をさせていただいて、今後、新しい事業者が決まった際には、その辺、どンドン協議をしていきたいというふうに考えております。

●G委員 わかりました。

北海道さんに質問ですが、7つの一体化空港をやるのですけれども、受入体制について、7つ一体の2次交通をどういうふうに考えられているのか。JRに対しては、今、説明をいただきました。仙台空港がやはり2次交通で苦戦しているということも報じられていますので、今後、この7つ一体空港をやっていく上に、今の段階でどういうふうになっているのかということをお聞きします。

●北海道（空港運営戦略推進室参事） 道内航空ネットワーク、あるいは、航空ネットワークの充実強化という部分で、やはり2次交通、空港へのアクセスとか、そういうものは重要ということで、事業者様からご提案いただくような形になると考えています。

それで、8月16日に1次の審査書類の締め切りがございまして、今、第1次審査が行われているという状況でございます。その後、第2次審査ということで、いずれにしましても、2次交通の部分については、事業者様から提案いただく形になると考えてますので、そこで、先行例で、報道とかを見ておきますと、やはり2次交通のところが評価されたということがございますので、そこら辺については、いい提案を出していただけるような形、審査項目、点数がつくような形になっておりますので、そういう形になってくると考えてございます。

●G委員 それでは、我々に情報として提供できる範囲で、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ほかにご意見、ご質問はございますでしょうか。

●F委員 全く違う角度かもしれませんが、苫小牧のハイヤー会社がどうして千歳の飛行場に入り込んで営業できないのですか。これを何とか、やはり平等にするように、道庁さんにも労をとってもらいたいなと思っております。

そのほか、まだ2つ、3つあります。その答えを先に下さい。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） まず、ハイヤーの関係で言いますと、それぞれのタクシーにおかれましては営業圏というものが設定されています。圏域の中で特定の地域の業者さんが営業できるという形になっておまして、新千歳空港におきましては、千歳地域の営業指定がされているということで、千歳市の事業者が中心に入っております。逆に言うと、苫小牧市の事業者さんはそこには乗り入れできない、そういった規制というものがかかっております。

一方で、今、新千歳空港は、非常にインバウンド、外国人のお客様を含めて、かなり多くの方が見えている。そういった中で、タクシーの需要が非常に逼迫しているという

こともございまして、国の運輸局におきましては、冬場の期間におきまして、ニセコとか、そういったところにタクシーで行かれる富裕層の方も多くいらっしゃるということで、冬の期間におきましては、営業圏の規制を取り払って、どこのハイヤー会社でも要は入ってこられるようになるという形になっております。そういった意味で、期間限定ではございますが、苫小牧のハイヤーにつきましても、新千歳で営業できるという状況にはなっております。

●F委員 それを実態であればいいのですが、そうでない部分も、我々が利用しようと思っても、そうでない場面がありますから、よく調べておいてもらいたいと思います。

それと、平成26年11月29日に北海道の知事さんが、私に相談したいことがあるということで、私の自宅にひょっこりおいでになりました。その相談の内容は申し上げるわけにはいきませんが、そのときに、私は、知事さんから、私に何か頼みたいことはないかと言われましたから、来年は、植苗の女子学生が殺されて、遊ばれて、ちょうど63年になるけれども、それを防御するためにできた植苗の自警団が、来年、60周年になりますという話をしまして、6年生の女子生徒が亡くなって、その2、3年後に植苗の駅通で、高校生の女子生徒がクラブ活動で帰ってきて、みんな1人で帰るものですから、4名の方が被害に遭って、1人は本当に大変な事故でありましたが、あとは、1人は羽交い絞めになって、親指が口のところに來たから、いきなりかんでやったら放してくれたから、すぐそばにあった自動車会社の事務所に逃げ込んだということ。あと2人は、殺されるよりはと思って、仕方ない、その場で泣き寝入りしたという状態を知事さんにお話を申し上げました。

そして、その後で、苫小牧市の新年のご挨拶に行って、お願いを申し上げて、北海道のある担当の方にお寄りをいただいて、植苗駅に向かって、両側50メートルずつを市街化区域に、この市街化区域は20年たってもできないよと苫小牧市さんから言われておったのですけれども、そのことを実行に移してもらいました。今、1軒はもう建てたいと言っているのですけれども、下水道が完成されていないために、実行することができません。ですから、せっきくの機会ですから、植苗の駅まで早く下水道を上げて、植苗の駅付近は早く調整区域を撤廃して、住宅が建てられて、もう少し植苗駅方面が開発されるように取り計らっていただきたいものだなと思ひまして、お願いの言葉とさせていただきます。どうかよろしく願ひします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） F委員より前々からお話をいただいております。植苗から駅通の両側の50メートルでございます。建設可能な区域を拡大してほしいというお話は、これまでも、その都度、お話しいただいております。

先ほど、地域振興対策の方でご説明いたしました、平成28年11月に植苗地区の星ヶ丘団地におきまして、地区計画を苫小牧市さんにおいて策定していただきました。こちらにつきましても、先ほど説明いたしました道営住宅の建設という具体的な整備計画があったということで、地区計画を策定できたというところでございまして、そこからさらに拡

充していくということになりますと、まずは、この星ヶ丘団地内でのエリアにおいて、多くの方々に住宅等を建てていただいて、そこから繋がっていく形になっていく必要があるかというふうに考えております。今回の道営住宅を契機に、多くの住宅が植苗地区に整備されますように、苫小牧市さんとも連携しながら対応を進めてまいりたいと、このように考えております。

●F委員 そうではなく、まだまだ認識不足です。高校生の女子生徒が、単独で帰る人たちの事故が起きてから責められるより、起きないうちにとまって、自警団の人たちもこの忙しい中でも毎日回ってくれています。やはりあの駅通に点々と住宅を早く建ててほしい。それは星ヶ丘団地がいっぱいになってからというような、そんな鈍い話ではだめ。30枠を通してあげたあのときの思いを訴えていただいて、下水道を通し、できれば、やはり住宅を建てられるように、これは道庁さんでなく、苫小牧市さんをお願いしたいと思います。

副市長さん、何とかその辺を、やはり沼ノ端はあそこまで立派になりました。今度は植苗地区が千歳飛行場に繋がるパイプ役ができるように育ててもらわないとならないと思っています。その大事なところに3軒でも4軒でも住宅が建てられる状態にして、早く建てられるようにしてもらわないと、向こうがいっぱいになってからそっちに行くなんて、そんな鈍いものではだめなんです。ここで事故が明日にも起きるかもしれない。そういう厳しい環境を知らないから、逆に、今、そんなことを答弁できる。役人の答弁をそのまま聞くわけにはいきません。

苫小牧市さん、返事をお願いします。

●苫小牧（副市長） F委員の話については、毎年のようにお伺いをしています。

例えば、街灯や、非常に背が高くなった木のご指摘もあったわけで、そういったすぐできるものについては、苫小牧市としても、伐採をしながら、駅前通の道路の明るさを確保したりとか、できることをとにかくまずはやろうということでやらせていただいています。

住宅の問題については、市街化調整区域に住宅を建てられるようにするということは、F委員が一番ご存じのとおり、非常に、これはなかなか簡単にはできないという中で、地域のご要望に応じて、今回、星ヶ丘の開発といいますか、住宅が建てられるように我々も進めてまいりましたから、すぐに全部やれというのは、おっしゃる意味はわかりますけれども、順繰り順繰り、状況を見ながらさせていただきたいなというふうに思っています。

問題意識は我々も持っているということでございます。

●F委員 もう1点、言わせていただきます。

これも、知事さんがうちに来ていただいて、あとは何かないかと言われたものですから申し上げたのですが、植苗のことではないのですけれども、鳩山総理さんにも訴えたり、いろいろ随分されているけれども、支笏湖からおりてきている道道と高速道路の交差点に、1つの窓口というかインターをつくってほしいという声があるのだけれども、そんなことを知事さんの方でお願いできないものですかと申しておきました。そのことが効いたのか、皆さんの働きが効いたのか、平成27年3月19日付で植苗のファミリーセンターで調印

式をしていただきましたが、20日の新聞の右側に、待望の30枠が、今、横にいるI委員のもとで調印式が終わりましたという記事が、そして左側に、中央インターを許可しますという道新の一面記事が出ていました。

そして、その6月かな、室蘭の道路関係の方と、道央自動車道の関係の方が3人おいでになって、中央インターということで、知事さんの許しを得て進めているのだけれども、何としてもその場所を確保するのが大変なので、Fさん、場所を、地理に明るい人だから何とかならないのでしょうかと、そんな質問がありました。あそこは、たくさん苫小牧市の山林のあるところで、少し乗り越えて、200メートルも行ったら、うちの本家が木炭をやらせてもらって、もう60年もたっているから、木は大きく育っているけれども、そういう場所は十分あるはずだから、苫小牧市さんに行って相談してみたらどうですかと申し上げました。その後は来ていませんけれども、そこまで私のところに話しに来ておりましたから、私が知事さんをお願いしたこともまんざらではなかったのかなと思っています。

以上です。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） F委員、ご意見ということで、ありがとうございます。

ほかにご質問、ご意見はございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ないようであれば、最後に、議題の（7）その他として、北海道から何かございますでしょうか。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） ございません。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、本日の議題は全て終了いたしました。委員の皆様から何かございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ないようでございますので、協議会の閉会に当たりまして、交通企画監と副市長からご挨拶を申し上げます。

初めに、交通企画監、お願いいたします。

●北海道（交通企画監） 本日も、皆様お疲れのところ、長時間にわたりましてご意見を賜りまして、本当にありがとうございます。

皆さんからいただきましたご意見は、今後の地域振興対策、あるいは、住宅防音対策、さまざまな対策の中で、しっかりと踏まえながら取組を進めていきたいと思っています。

今日、いくつかご指摘をいただいた中で、やはり情報提供をちゃんとやってくれというご意見があったかと思います。今、航空行政がいろいろと動いておりますので、道としましても、今日いただいたご指摘を踏まえて、なるべく早目に情報提供をしながら、ご相談をさせていただければというふうに思っています。市さんの方とも十分に連携しながら取組をしていきたいと思っています。

いずれにしても、この新千歳空港の24時間運用はF委員からも先ほどお話しいただきましたけれども、いろいろと協議の中で、この地区の皆様方のご尽力の上で合意をしていただきました。その上で、今、24時間運用が何とかその実を実りつつあるというような認識を私どもとしても持っております。この点を十分に心に刻みながら、今後ともしっかりと、私どもも、市とともに取り組んでまいりたいと思っておりますので、引き続き、皆様方のご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

本日は、本当にありがとうございました。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 続きまして、副市長からご挨拶を申し上げます。

●苦小牧市（副市長） 本当に皆さんお疲れのところ、今日もさまざまな角度から、地域のこと、それから、市全体のこと、大変貴重なご意見をいただいたと思います。もちろん、やれることはすぐ手をつけたいと思いますし、少し時間をいただかなければならないというようなことについては、また皆さん方と相談をしながら進めてまいりたいというふうに思っております。

貴重なご意見を大変ありがとうございました。

今後とも、よろしくお願いをいたします。

4. 閉 会

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、以上をもちまして、第47回新千歳空港の24時間運用に関する苦小牧市地域協議会を終了させていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

以 上